

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～						
重点目標		① 自ら学び考える主体的な力を育む。② タブレット端末を効果的に活用し、わかった、できたと実感できる授業を展開する。また、基礎・基本の定着及び活用する力の向上を図る。③ 問題行動や不登校生徒の減少に向けた未然防止・早期対応の充実を図る。④ ホームページ、メール配信等を有効に活用し、天中の教育を積極的に発信する。⑤ 感染症対策に努め、子どもたちの学びを止めない。						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①授業方向上を目指した授業改善の校内研修会を実施する。 ②誰一人取り残さない個別最適な学びを実現する。 ③家庭・地域や校区内のご幼小中学校と連携し、学力向上、学びに向かう力を推進する。	①全国学力調査、学校評価、授業評価アンケート等をもとにわかりやすい授業を目指す。 ②ICT機器を効果的に活用し個々に応じたわかる授業づくりに取り組む。 ③校区内のご幼小や家庭との連携を推進する。地域の協力を得た土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。また、ホームページや学校だより等を通して、本校の様子を発信する。	①授業は「わかりやすく楽しい」と感じる生徒の割合を75%以上にする。 ②「先生は、教え方に工夫をしている」と感じる生徒の割合を90%以上にする。 ③校区内のご幼小の合同研修会を年1回、実施する。土曜スクールを年12回実施する。また、ホームページを月10回以上、学校だよりや学校だよりを月4回以上発行する。	B	①授業は「分かりやすく楽しい」と感じる生徒の割合が81.1%(昨年度と同様)となり、目標を達成することができた。 ②「先生は、教え方に工夫をしている」と感じる生徒の割合を94.4%(昨年91.7%)となり、目標を大きく上回った。 ③校区内のご幼小と夏季合同研修を開催し、学力向上に向けて情報共有できた。土曜スクールを年12回開催できた。また、ホームページを月18.7回更新し、学校だより、学年だよりを月8.4回発行できた。	①教科部会を一層充実させ、全国学力調査、授業評価アンケート等を分析し、わかりやすい授業を推進する。 ②タブレット端末を積極的、効果的に活用し、より一層個に応じた学習を展開する。 ③効果的な校区内のご幼小連携を図り、学力向上、不登校の未然防止等に努める。また、土曜スクールを有効に活用し、地域と連携して学力向上に努める。引き続き、ホームページやGoogle classroom等を活用して、本校の情報を積極的に発信する。	・授業力の向上を目指して先生方の授業改善の方策が少しずつであるが成果として表れ、今後の学力向上につながると思っております。 ・授業等でのタブレットの活用を効果的に活用し、主体的な学びと深い学びの深化につながるような授業を構築していく必要があると考えます。 ・校区内の学校園との連携を通して校区の課題である学力向上や不登校に関わる課題について積極的に取り組んでいく必要があると考えます。 ・引き続き学校通信やホームページ等を活用して学校の情報を保護者や地域への発信を希望します。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①ICT機器の活用能力の向上を目指し、積極的に活用する。 ②英語教育の充実を図り、グローバル化に活躍できる人材を育成する。 ③デジタル社会を見据えた教育を推進する。	①教職員及び生徒の一人1台のタブレット端末を効果的に活用する。 ②グローバル社会に適用できる英語教育(読む・書く・話す)を充実する。 ③タブレット端末を有効に活用させるために、授業や家庭学習において、AIDリルやデジタル教科書を効果的に活用する。	①ICT機器の使用回数を月に2,000回以上にする。 ②CEFRによるA1レベルを全国の平均値以上にする。 ③毎日授業のライブ配信を行う。また、AIDリルまたはデジタル教科書を毎時間授業で活用する。	A	①積極的にICT機器を活用した結果、月平均3,678.6回(昨年度1,836.3回)となり、目標値を大きく上回った。 ②CEFRのA1レベルは、全国の中学3年生の割合が47.0%であり、本校も同様の47.0%であった。 ③毎日授業のライブ配信が行えた。また、AIDリルの活用は進んだがデジタル教科書の扱いに慣れていないこともあり、活用できない場面があった。	①一人1台のタブレット端末を活用し、AIDリル(未来シード)などを積極的に活用する。 ②CEFRのA1レベルを5割を目指す。 ③デジタル教科書やAIDリルを積極的に活用し、充実した教育を推進する。また、生徒手帳や連絡帳などの生徒の使用物もデジタル化していく。	・一人1台のタブレット端末を活用したAIDリルを積極的に活用していることには評価できる。今後はAIDリルのメリットとデメリットを見極め活用していくことを希望します。 ・CEFRやデジタル教科書の効果的な活用方法について研究実践していくことを期待しています。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①「考え、議論する道徳」及び「心の教育」を推進する。 ②いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ③不登校の予防に努める。 ④体験活動等を通じて、生徒の主体性を育成する。	①道徳教育を充実させるために、道徳のローテーション授業を行い、道徳教育における指導力の向上に努める。また、すべての教育活動を通して、思いやりの心や進んであいさつする習慣等を醸成していく。 ②魅力ある学校づくりを推進するため、すべての教育活動を通して充実感や達成感を感じられるようにする。また、生徒の良さを認め、自己肯定感を高めていく。 ③不登校未然防止のため、教育相談体制の充実や、「心の居場所」となる学校づくりに努める。 ④達成感や自己有用感を高めるため、体験活動等を充実させ、生徒の主体性を育成する。	①道徳のローテーション授業を年2回以上開催する。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」の生徒の割合を80%以上、「あいさつをきちんとできている」の生徒の割合を80%以上にする(A評価で50%以上にする)。 ②「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」という生徒の割合を昨年度以上にする。 ③「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談ののってくれる」という生徒の割合を90%以上にする。 ④トライやる・ウィークをはじめ、体験活動を学期に1回以上行う。	B	①道徳のローテーション授業を年2回開催できた。「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」の生徒の割合が91.6%、保護者の割合が90.8%と目標を達成できた。また、「あいさつをきちんとできている」の生徒の割合が89.2%(A評価は54.3%)と、目標値を達成できた。 ②「学校へ行くのが楽しい」の生徒の割合は、81.7%(昨年度84.4%)で昨年度を下回ったが、「学校行事は楽しい」は89.3%(88.4%)と昨年度を上回り、行事を楽しみにしている生徒が増えた。 ③保護者と連携し、不登校の未然防止に努め、減少することができた。ただ、「学校には、子どものことを相談できる先生がいる」の保護者の割合は82.6%(昨年度82.0%)と前年度を上回ったが、目標値を下回った。 ④トライやる・ウィークを実施することができた。	①道徳教育推進教師を中心として、道徳教育を推進する。また、引き続き、道徳・人権教育講演会を開催する。さらに、すべての教育活動を通して、思いやりの心や、挨拶の重要性を伝え、習慣化を図る。 ②生徒一人ひとりの良さを認め、温かい声かけを増やし、生徒の自尊感情を高める。また、魅力ある学校づくりについて研鑽を深める。 ③相談体制を充実させ、関係機関とも連携を深め、不登校の未然防止を図る。また、学校が生徒の「心の居場所」となるように研鑽を深める。 ④生徒が主体となって取り組める体験活動を地域と連携し、積極的に実施していく。	・先生方の生徒に対して手厚い関わりで感謝しています。教育活動全般において自尊感情の醸成に今後も取り組まれることを期待しています。 ・新型コロナウイルス感染症の対策が緩和されていくことが予想されますので学校内での活用はもちろん、地域人材を活用することや生徒自身が学校外で活動していけるような取り組みに期待しています。 ・不登校の未然防止に努めるためには「学校が楽しく、授業がわかることが一番です。昨年度より不登校率が減少していることを大きく評価します。今後一人一人の子どもの状況を把握しながら個に応じた不登校の未然防止に向けた取り組みに期待しています。そのためには教員のチーム力とスクールカウンセラー等の連携を密に取り組むことを期待しています。

<p>「健やかな体」の育成</p> <p>①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進</p>	<p>①運動の習慣化を図る。</p> <p>②部活動の活性化を図る。</p> <p>③規則正しい生活習慣の獲得を図る。</p>	<p>①主体的に体力向上に取り組める生徒を育成する。</p> <p>②充実させる内容(目標)を各部活動で持たせ、活動していく。部活動で学んだことが、実生活で役に立つことを実感させる。</p> <p>③生徒が自ら、生活リズムについて意識を高めさせる。また、早寝・早起き・朝ごはんについて家庭と連携する。</p>	<p>①体力・運動能力、運動習慣等調査で男女とも全国平均以上にする。</p> <p>②「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>③規則正しい生活習慣を送っているという生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>B</p> <p>①体力・運動能力、運動習慣等調査で男子は47.21点(全国平均41.04点)、女子が48.72点(全国平均47.42点)で目標を達成することができた。</p> <p>②「天中の部活動は、充実している。」という項目に対し「あてはまる」と回答した生徒が全体として90.1%と目標を達成することができた。</p> <p>③「規則正しい生活について指導している」は、教師の割合が85%、保護者の割合が88.8%と目標を達成することができたが、生徒の割合72.2%と目標値を下回った。</p>	<p>①体育の授業や部活動を通して、計画的に体力の向上に努める。また、保健だより等を通して、家庭・地域との連携のもと、運動習慣を定着させる。</p> <p>②円滑な部活動の地域移行に努め、魅力ある部活動の推進に努める。</p> <p>③学校だよりや保健だより等を通して、家庭に協力を求め、規則正しい生活習慣を目指す。また、保健の授業や食育だより等を通して、平日頃から朝食の必要性を伝えていく。</p>	<p>・コロナ禍における体力や運動能力の低下が懸念されていますが、天中においては充実した体育科の授業や部活動に取り組んでいると感じられます。今後も継続していただくことを期待します。</p> <p>・働き方改革等で部活動も従来のような活動が難しくなってきていると考えられますがよりよい方策を研究検討していくことを期待しています。</p> <p>・生活習慣が夜型になりつつあります。規則正しい生活習慣は心身の健康や学力の向上に大きく影響すると考えられます。養護教諭を中心に学校の教育活動全体を通して健康な生活習慣の必要性について発信してください。</p>
<p>教育相談・支援体制の充実</p> <p>①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実</p>	<p>①主体的な進路選択を支援する。</p> <p>②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。</p> <p>③教育相談を充実させる。</p>	<p>①保護者と連携し、個に応じた能力・適正・実態を踏まえた進路指導を行う。</p> <p>②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと積極的に連携する。</p> <p>③教師間の情報交換、情報共有を密に行う。すべての教育活動を通じて、生徒の自尊感情、自己有用感の醸成に努める。</p>	<p>①「学校は、進路について情報を保護者に知らせるとともに、適切な進路指導を行っている」の保護者の割合を80%以上にする。</p> <p>②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと連携し、不登校生の割合を昨年度以下にする。</p> <p>③「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談ののってくれる」という生徒の割合を90%以上にする。</p>	<p>B</p> <p>①「学校は、進路について情報を保護者に知らせるとともに、適切な進路指導を行っている」の保護者の割合が82.2%と目標を達成することができた。</p> <p>②放課後登校や別室登校など個々に応じた対応が行え、不登校の割合が昨年度より減少することができた。</p> <p>③相談体制を充実させたが、「先生は生徒の悩み事や不安に親身になって相談ののってくれる」の生徒の割合が86.2%(昨年度87.8%)と目標値を下回った。</p>	<p>①キャリアパスポートを積極的に活用し、自己理解・自己管理能力や課題解決能力等を育成していく。</p> <p>②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、関係機関等とも積極的に連携に努める。</p> <p>③相談体制を充実させ、不登校を未然に防止できるように、より一層関係機関とも連携を深める。</p>	<p>・キャリア教育を通じた自己理解や自己管理能力の育成は必要不可欠です。学校内外の様々な取り組みを通して定期的に自分をみつめ直す機会を設けられる場を設定することを希望します。</p> <p>・不登校や発達障害など特別な配慮を要する子どもたちが増加しています。学校現場においてスクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの助言を参考にし相談体制の充実を期待しています。</p>
<p>特別支援教育の推進</p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>①伊丹特別支援学校と連携する。</p> <p>②特別支援教育の充実を図る。</p>	<p>①特別支援学校生徒との交流及び共同学習から、相互に理解を深める。</p> <p>②特別支援教育推進委員会の体制を整え、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を充実させる。</p>	<p>①事前に打ち合わせを十分に行い、年に2回交流を行う。また、適宜、コンサルテーションを活用する。</p> <p>②特別支援教育推進委員会を月に1回開催する。</p>	<p>A</p> <p>①年2回の交流を行うことができ、達成した。また、今年度、月1回以上、コンサルテーションをしていただき、専門的対応が図れた。</p> <p>②特別支援教育推進委員会を月に1回開催することができた。</p>	<p>①円滑な交流が図られた。今後もコンサルテーションを活用し、一人ひとりの生徒に対する適切な対応に努めていく。</p> <p>②積極的に生徒と保護者との合意形成を図り、合理的配慮を提供していく。</p>	<p>・特別な配慮を要する生徒は年々増加し、その要因は複雑化してきています。校内委員会において一人一人の状況を見極め個々の子どもたちに適切な支援体制を保護者との合意のもと合理的な配慮の場を設定することを希望します。</p>
<p>教職員の資質向上</p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①校内外で研修に努める。</p>	<p>①校内外の研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、資質向上に努める。</p>	<p>①校内外の研修に平均10回以上参加する。また、自主研修会を年間6回実施し資質向上に努める。</p>	<p>A</p> <p>①校内外の研修会に平均約10回参加し、目標を達成することができた。自主研修も6回実施できた。また、自主的に大学へ行き、研修を受講する教員も出てきた。</p>	<p>①研修会に参加して参考となった内容等を教職員で情報共有し、OJTを活用し、高いに学び合う、高め合う教員集団の構築に努める。</p>	<p>・先生方の教育に対する熱い熱意と自己研鑽する姿に感謝しています。「積極的に自ら学ぶ」教職員集団の構築をさらに推進していくことを期待しています。</p>
<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>①コミュニティ・スクールの充実を図る。</p> <p>②地域・保護者との連携を図る。</p>	<p>①学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実を図る。</p> <p>②PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。</p>	<p>①学校運営協議会を年3回開催し、生徒、保護者、地域の希望に応え信頼される学校運営を行う。</p> <p>②「保護者や地域の人とともに積極的に活動している」の教師の割合を75%以上にする。</p>	<p>B</p> <p>①「天中・夢サミット」を含め、学校運営協議会を4回開催することができた。</p> <p>②「保護者や地域の人とともに積極的に活動している」の教師の割合が77.5%(昨年度62.2%)で目標を達成することができた。</p>	<p>①学校運営協議会と生徒、教職員の交流の機会を増やす。学力向上、不登校対策、働き方改革等について熟識していく。</p> <p>②ポストコロナ時代において、地域との交流・連携を図り、地域の教育力を有効に活用していく。</p>	<p>・学校運営協議会ではわかりやすい資料の提供がありがたいな時間設定でも十分に熟識することができました。また、委員から様々な意見を学校と交流することができました。</p> <p>・コロナ禍で地域との交流が減少してしまいましたが、今後少しずつ増やしていくことが必要と考えています。</p>

教育環境の整備・充実	安全・安心な教育環境の充実	①防犯訓練・防災教育の充実に努める。	①危機管理マニュアル等を活用し、的確な防災教育を実施する。	①防犯や災害が発生した際の対応を身に着けるため、年2回の避難訓練を実施する。	B	①年2回避難訓練を実施することができ、目標を達成した。	①危機管理対応マニュアルを見直し、学校の防犯・防災の体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で子どもたちの登下校時や教育活動内の事件や事故が発生しています。有事が起こったときに被害を最小限にするために日頃から自分自身の身の守り方を知ることなど日頃から危機管理意識を高める教育を推進していくことを希望します。 ・自転車のヘルメット着用が努力義務となった。今後、部活動等で自転車を使用するときの基準等について検討する必要があると考えます。 ・ワークライフバランスが非常に大事だと考えられます。先生方の仕事も大切ですが、先生方のプライベートも大切であると考えられます。先生方の心身共に健康な姿が子どもたちの学校生活にも大きく影響すると考えられます。先生方が自分自身の仕事のマネジメント意識を構築していくことも重要であると考えられます。
	<ul style="list-style-type: none"> ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ②安全・安心な教育環境の充実に努める。 ③子どもの交通安全対策の充実に努める。 ④学校施設の整備体制を整え、維持保全に努める。 ⑤働き方改革を、より一層推進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ②感染症対策、熱中症対策等の充実に努める。 ③生徒一人ひとりが正しい交通ルールを理解し、交通安全に努める。 ④それぞれの場所において、環境設備を点検する。 ⑤業務改善委員会を行い、働き方改革の充実及び業務においてデジタル化を図る。また、超過勤務時間の削減を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②熱中症対策及び感染症対策の見直しや協議を行うため、検討委員会を5回以上実施し、未然防止及び初期対応の充実に努める。 ③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらっている」の生徒の割合を90%以上にする。 ④それぞれの場所において、月1回破損箇所や修理の必要な箇所を点検する。 ⑤業務改善委員会を年3回開催する。また、時間外勤務の月60時間以上の教職員を1割削減する。 		<ul style="list-style-type: none"> ②熱中症対策及び感染症対策の見直しや協議を行うため、検討委員会を7回実施することができ、目標を達成した。 ③「学校で交通ルールや安全な学校生活の仕方等を教えてもらっている」の生徒の割合を94.1%（昨年度92.7%）となり、目標を達成することができた。 ④毎月1回、施設の点検を行うことができた。校舎の老朽化により、修理が必要な箇所が多かった。 ⑤業務改善委員会を年間7回開催できた。紙媒体から電子データに変えるものを増やした。また、時間外勤務の前年度同月で60時間以上の教職員を20%削減できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ②社会状況を鑑み、随時熱中症と感染症対策を検討していく。 ③交通ルールについて、様々な場面で、考える機会を設定する。 ④校舎の老朽化が課題であり、大規模工事等を市教育委員会に依頼する。 ⑤業務改善委員会を活性化させ、時間外勤務の削減に努める。また、デジタルをより一層推進し、業務の効率化を図る。 	

学校関係者評価総括

新型コロナウイルス感染症の影響で様々な場面で教育活動が制限されてきました。とくに、3年生は入学当初からつらい思いをしておの中学校生活であったと考えられます。しかし、先生方が様々な場面で子どもたちによりそい、きめ細やかな支援を行っていたことに感謝します。本年度の卒業式で卒業生が「中学生でよかった！」と話していました。子ども、教師、保護者、そして天王寺川中学校と関わることに誇りがもてる天王寺川中学校に成長してきたと思います。ゆえに、本年度の天王寺川中学校の自己評価に対しておおむね評価します。来年度も本年度の成果と課題を分析し実効性のある改善策の実行を期待します。来年度も校長先生を中心に「チーム天王寺川中！」として飛躍していくことを期待しています。

次年度に向けた重点的な改善点

次年度も、本校の教職員とともに、子どもたちにとって、学校が『心の居場所』となるよう『魅力ある学校づくり』を推進してまいります。そのためには、「学力向上」「不登校の未然防止」を中心に研究を重ね、教職員の叡智を結集して取り組んでまいります。さらに、学校運営協議会でも熟議を重ね、最善の策を講じてまいります。そして、子どもたちにとって「行きたい学校」、保護者にとって「通わせたい学校」、教職員にとって「働きがいがあり、自分自身の能力を存分に発揮できる学校」、さらに、地域にとって「誇れる学校」になるよう努めてまいります。

<学力向上>

子どもたちがこれからの未来を逞しく生き抜くための「確かな学力」の定着を図る。そのために、各教職員の授業力・指導力を向上させることはもちろんのこと、「ICT機器の効果的な活用」や「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を図るとともに、「令和の日本型学校教育」の目指す「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。さらに、家庭・地域との連携を進め、家庭学習の定着及び土曜スクールや放課後学習の充実に努める。

<不登校の未然防止>

わかる授業や感動のある行事等を通して、子どもたちの自尊感情の醸成を図っていく。そして、すべての教育活動を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、学校が子どもたちにとっての「心の居場所」となるよう努める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った